

第2回は21名の参加がありました。始めは疲れ果てた顔をしていた先生方が、生徒指導や道徳の授業の面白さと難しさを改めて感じ、帰るときにはヤル気に満ちた顔をしていたのが印象的でした。やはり瀬戸内の先生方は熱盛～！ここで一句。「外は雨 塾の帰りは 口にアメ」お疲れさまでした。

第1部 子どもとの適切な距離感 ～生徒指導「寄り添う」と「向き合う」とは～

子どもたちからのいろんなメッセージ。「うるせ～どっか行けえ!」「・・・(無反応)」「他の先生には絶対ナイショにしといて?」適切な生徒指導について考えました。

自己存在感、共感的な人間関係、自己決定の場、という言葉が久しぶりに思い出しました。日頃場当たりのことばかりしていたな、と振り返りました。

(子どもたちのことが)もう全て分かっているつもりでも、もう一度一人ひとりを大切に見つめ直したいと思いました。言葉づかいを意識して気分を変えるのもお互いに良い刺激になるなと思いました。

立ち位置や表情、言葉づかいを意識することの大切さを改めて感じました。

小学校の先生方と共有することで、より発達段階に応じた関わり方があったことが分かりました。違いはあれど、大切なものは変わらないことも分かりました。

寄り添うと向き合うのバランスやタイミングは、場面や裏にある背景によって違います。自分一人で対応しようと思わず、いろんな大人の目で子どもを見取っていきましょう。(藤原)



第2部 特別の教科道徳の評価について ～個人内評価で励ます評価を～

事前に提出していただいた道徳の評価案をもとにして、適切な評価記述、改善が求められる評価記述について、その視点を整理する形でみなさんと一緒に考えました。

評価をするためには、その根拠となるものを集めるための授業づくりや評価シートが必要だと改めて思いました。

今の(自分の)道徳の授業では評価することはできない。道徳の授業の見通しが必要。見取ることのできる授業をしていきたい。

子どもの見方、考え方を一面的なものから多面的なものに変えられるよう、また自分自身の中で道徳的価値の理解を深められるような授業を目指していきたいと思えます。

難しいと感じた方が多かったようで、ごめんなさい。道徳は個人内評価をします。評価文例集は「どこかの誰かを見取った評価」です。それがみなさんの前にいる子どもたちにそのまま当てはまるでしょうか。大切なのは、先生自身の言葉で子どもの頑張りを伝えることです。(木村)



『道徳で正しい評価をするためには、授業づくりがいかに重要かということでは理解できませんでした。だから、もっと資料分析(授業づくり)の勉強をしたいです。』
分かりました!臨時で7月27日(金)18:00～、第3回をやります!

参加者からの
主なアンケート